

平成28年11月 8日

うるま市長  
島袋俊夫様

うるま市行政改革推進委員会  
(補助金審査委員会)  
会長 佐藤学

## 平成28年度うるま市補助金等に関する審査結果について

この度、うるま市行政改革推進委員会規則第2条第3項及びうるま市補助金制度に関する指針に基づき、うるま市が行う補助金等について審査を行ったところでありますが、審査委員会としての提言を別紙「平成28年度うるま市の補助金等に関する審査結果について」のとおり取りまとめましたのでここに報告いたします。

平成28年度

うるま市の補助金等に関する審査結果について

平成28年10月

うるま市補助金審査委員会

## 目 次

第 1	審査の対象と方法	1
	審査の対象	
	審査方法	
第 2	審査結果概要	2
	総括	
	総合評価内訳	
第 3	個別審査結果	5
◇	付属資料	10

# 第 1 審査の対象と方法

## 1 審査の対象

前年度同様、すべての部署の補助金等を対象に、事務局が調製したリストの中から各委員が3点をピックアップし、委員会で最終選定した10件の補助金等を対象に審査した。ただし、以下のものを除く。

- ・出席者負担金
- ・法令（市条例は除く）に定めのある負担金

## 2 審査方法

審査結果を平成29年度の予算編成に反映させるため、10月までに審査を終えることにした。

審査は個別の補助金等について、事前に事務事業評価票（補助金交付型）、事業報告書、決算書等の資料の提出を求め、担当部署ごとにヒアリングを実施し以下の要領で行った。

- (1) 「うるま市補助金制度に関する指針」に定める「交付基準」を踏まえ評価を行い、「見直し基準」により方向性を判断する。
- (2) 審査対象補助金を1会議あたり、5件を目途に審査する。
- (3) 審査では、補助金審査票（事務事業評価票・補助金交付型）及び関連資料を基に担当課ヒアリングを実施する。ヒアリングは、うるま市補助金制度に関する指針に示した補助金交付基準（1. 事業の公共性、2. 事業の効果性（有効性・効率性・適時性）、3. 団体等の適格性など）に基づき、市民の視点から補助の必要性、額の妥当性等を検証する。
- (4) 上記審査に基づき、委員会としての総合評価（A：更に充実させる方向で見直し、B：現状のまま継続、C：効率化・コスト削減の方向で見直し、D：縮小・廃止を前提とした見直し）を決定し、その理由や意見、見直しの方向性等を取りまとめる。

## 第2 審査結果概要

### 1 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

うるま市における補助金等のあり方について、市民目線で審査を行うために当委員会が設置され、今回で10回目の審査となった。市民の立場から補助金等を確認していくことは行政改革として大変重要なことであり、補助金等が設定された趣旨や、時代の流れの中で本当に相応しいのか、常に検証していく必要がある。

今回、各委員が3点ずつピックアップした補助金等の中から、委員会で最終的に10件を選定し、担当課の事務事業評価票を基にヒアリングを行い、「うるま市補助金制度に関する指針（平成26年5月改訂）」に基づいて「本当に必要な補助金か」「額は妥当か」「運営上の課題はないか」等の視点から審査を行った。審査の結果として、まず始めに総括的な指摘事項として以下のとおり提言する。

#### (1) 補助金等の改善結果

担当課は審査委員会の指摘内容を受けて指導・改善を行っているが、どのように対処したのかが明文化されておらず、どのような改善に繋がったのかが不透明である。

担当課は、委員会の指摘・提言を真摯に踏まえ、改善結果を明示するよう努力していただきたい。

#### (2) 周知・広報の推進・強化

今回審査した補助金において、市民への周知・広報が不足していると見受けられるものがあつた。

周知・広報の強化は、例えば、市民の意識向上により補助目的が達成され、補助金額の削減になる場合や、市民の利用促進による補助金額の削減につながる場合など、直接的に補助金事務と関係ないようなことでも、結果として効果が高くなると考える。

更には、制度理解と利用が広がることによる市民サービスの向上や、行政の説明責任を果たすこと、情報共有による市民協働の推進につながると思われる。

すべての補助金等についても、周知・広報は大変重要なことと認識され、一層の努力を行っていただきたい。

### **(3) 市民負担の軽減**

これまでの審査の傾向として、市民負担の軽減に直接寄与する補助金等は、より一層の充実を図っていただきたいとの意見が多い。今後はこのような補助金等の充実や創設に取り組み、市民満足度の向上を図る必要があると考える。

そのためにも現状の補助金等を見直すことが必須であり、担当課や団体も補助金制度に関する指針を常に意識していただきたい。

### **(4) 団体運営補助について**

団体運営に対する補助金交付について、団体職員の給与水準が市職員給与に近い基準に対して満額交付することは、到底市民の理解は得られないと考える。

設立間もなく、自主自立運営が厳しい場合は許容できるが、団体運営費は、実施する事業と関連のある経費のみを補助対象経費とするなど、担当部署は自立に向けた取り組みを促進する必要がある。

また、補助団体においても、自立に向けた自主事業や事業展開を行い、補助金に頼らない運営に取り組むよう求める。

### **(5) 広域事業体への補助**

今回審査した中に、担当課による裁量性がないまま補助金額等が構成市町村で決定されており、なおかつ事業効果に疑問のあるものがあつた。

担当課として事業効果に疑問があつても、それが反映できないということでは、改善に繋がるとは思えない。

補助金等が構成市町村で決定されるものであつても、担当課の意見を踏まえて協議する仕組みが必要であると考え。本市が、その議論を先導することを期待したい。

### **(6) まとめ**

今回の審査は、過去に審査対象となつた補助金が多く、その際の指摘事項がどのような改善につながつたのか、分かりづらいものが多かつたように感じる。

改善内容を明示することで、評価を行い易く、さらなる改善につながると考える。今後は担当課、補助団体において、改善内容の積極的な公開に取り組んでいただきたい。

また、市民への周知や情報提供が不足していると思われるものも見受けられた。補助金の成果・効果が市民に理解されることで、市民サービスの向上、市民負担の軽減へつながる。市民の視点に立つた周知・広報の仕方ができているか、各担当部署は情報公開・提供の重要性を今一度認識されたい。

最後に、うるま市補助金制度に関する指針に規定されている団体運営補助に関する交付基準について述べたい。現行の基準では、「補助できる期間は通算3年以内とし、終期を必ず設定すること」、となっているが、3年以内に補助を終了できないものがほとんどで、実態に合わず、基準が形骸化している。今後、実効性のある補助金審査が行えるよう、指針の見直しを行っていただきたい。

## 2 総合評価内訳 . . . . .

A：更に充実させる方向で見直し . . . . .	2 件
B：現状のまま継続 . . . . .	2 件
C：効率化・コスト削減の方向で見直し . . . . .	5 件
D：縮小・廃止を前提とした見直し . . . . .	1 件
外：評価なし . . . . .	0 件

## 第3 個別審査結果

### 市社会福祉協議会運営補助金【福祉総務課】

#### 「市社会福祉協議会運営補助金」の評価まとめ

##### ◆総合評価

「C」：効率化・コスト削減の方向で見直し

##### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

毎回同じようにコスト削減の方向で見直しという評価が出るなかで、社会福祉協議会に対する指導の在り方を見直す必要があると考える。

また、補助金審査の指摘や意見に対し、担当課はどのような対応を行ったか、社会福祉協議会がどのように取組を行ったか、文書で補助金審査委員会へ報告していただきたい。

会員の確保・増加に関しても、どのような取組がなされているのか、担当課として社会福祉協議会の現状をしっかりと把握することが重要である。

事業の効率化・見直しを行いながら、本当に福祉を必要としている方々に喜ばれるサービスを提供し、補助金の目的が達成できるよう、常に努力していただきたい。

### 中部北環境施設組合負担金【環境課】

#### 「中部北環境施設組合負担金」の評価まとめ

##### ◆総合評価

「C」：効率化・コスト削減の方向で見直し

##### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

人口の増加に伴いごみの量も増加するということは理解できるが、ごみ処理に関する達成度が毎年下がり続けている。処理の視点だけでなく、ごみ減量化をもっと進めていく必要がある。

今後、担当課は広報の活用や児童教育の在り方を含め、市民への啓発活動を積極的に行っていただきたい。



## うるま市観光物産協会補助金【商工観光課】

### 「うるま市観光物産協会補助金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「C」：効率化・コスト削減の方向で見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

観光物産協会の会員数で補助金の目標達成度とするのは適当でないとする。実施事業の達成度や観光物産振興・経済活性化などで計るべきである。

観光物産協会がまだ自主的な運営ができないということで、現在まで補助金が継続されているが、コスト削減の方向で見直しという評価が続いている。今後、市としての関わり方をどうすべきか議論する必要があるのではないかと考える。

自主財源の確保を積極的に展開し、自立ができるよう、引き続き団体に対する指導をしっかりと行っていただきたい。

## 法人保育所運営費負担金（委託費）（保育課）

### 「法人保育所運営費負担金（委託費）」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「A」：更に充実させる方向で見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

当該負担金は今回の審査になじまない性質のものではあったが、補助金審査を通して保育全体の問題・課題点が認識できた。

保育に関する市民の関心は高いが、保育制度の全体像が分かり難いため、市民が分かり易い説明や周知を心がけていただきたい。

また待機児童の解消に向けて、今後も保育行政の充実に取り組んでいただきたい。

## 市体育協会補助金（生涯スポーツ課）

### 「市体育協会補助金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「B」：現状のまま継続

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

スポーツ競技の盛んなうるま市において、県民大会派遣費や、団体育成等の為の補助金として、必要性は高いと認識している。

補助金の目標達成度を計る指標に関しては、スポーツ大会の開催数ではなく、競技全体の参加者数などが適しているのではないかと。

今後はうるま市で行われる大会等に関して、市民向けにPR活動を積極的に行い、裾野の拡大に努めていただきたい。

## うるま市児童生徒の派遣費補助金（中学校大会派遣費助成金）（教育総務課）

### 「うるま市児童生徒の派遣費補助金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「A」：更に充実させる方向で見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

現在、中学校体育連盟主催の派遣に関しては、中学校体育連盟が契約している旅行会社の見積りを採用している。事務負担軽減のため、というのは理解できるが、合宿や遠征を請け負う旅行会社は多いため、複数の見積もりを把握し経費削減に努める必要があると考える。

また、選抜大会や地域団体の派遣費も補助対象として拡大することや、文科系活動（マーチングバンド等）への補助費を増額する等、より多くの児童生徒が利用できるよう、検討していただきたい。

## 生活交通路線維持費補助金（市民協働課）

### 「生活交通路線維持費補助金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「B」：現状のまま継続

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

交通路線に関しては、維持していかなければならない現状の中においても、常に運用の検証・見直しを行い、効率化を図るべきである。

担当課としても実証実験やデータの取得、事業者との協議、地域振興までを視野に入れた取り組みを行うなどの努力も見られる。

今後もバス事業者と連携して、公共交通がないと困る市民のためのルートの拡大に努め、イベントや観光客などの経済的な観点からの事業展開も図られたい。

## うるま市シルバー人材センター運営補助金（企業立地雇用推進課）

### 「うるま市シルバー人材センター運営補助金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「C」：効率化・コスト削減の方向で見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

担当課の説明から、計画性をもって補助金の減額を行っていること、他市と比べて極端な給与水準ではないこと、全体の人件費等の抑制を図っていること、事業委託への転換を検討していることなど、若干の改善は見られた。

これまで補助金の縮小・廃止を前提とした見直しのD評価であったが、中長期的な視点による会員の増加、自立に向けた事業展開、補助金の縮小・削減を継続して行うということで、評価をCとした。

今後も事業内容の充実や効果的な事業運営、経営基盤の強化、人的な資質の向上など、不断に取り組むことは当然であり、自立への改善努力を強く求める。

## 駐留軍離職者センター助成金（企業立地雇用推進課）

### 「駐留軍離職者センター助成金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「C」：効率化・コスト削減の方向で見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

資料作成について、指標や数値等には沖縄県全体中のうるま市の比率の記入を希望する。国や県は、復帰以前（米国統治下）の案件を処理することができない。また、基地内の立ち入りが厳しく、証明書や証言などの取得が困難であることから、細やかで的確なサポートや処理を行う離職者センターの存在意義は理解できる。

当初は再雇用相談が中心だったものが、現在ではアスベスト訴訟や生活問題についての相談も増加しているため、制度の周知を積極的に行っていただきたい。

今後のセンターの運用の仕方を、該当する自治体で長期的な見通し・体制づくり（センターをこれからも長期的に運用するか・しないか、運用するならどのような形で運用していくか）について検討していただきたい。その議論の先導役を務めていただきたい。

## 中部地区老人クラブ連合負担金（介護長寿課）

### 「中部地区老人クラブ連合負担金」の評価まとめ

#### ◆総合評価

「D」：縮小・廃止を前提とした見直し

#### ・具体的な総合評価の理由及び事業に対する意見等

担当課が、負担金に対する厳正な自己評価を行っていることを高く評価したい。

中部地区老人クラブ連合会は、地域老人クラブからの分担金も徴収しており、更なる会員増を促進し、自主財源確保に努める必要がある。

一方で、総支出のうち人件費が約60%となっている。このような割合の運営に疑問を感じる。

中部地区老人クラブ連合会が要望する負担金算定に関し、構成する高齢者介護福祉担当課の審査等を経て、その意見が反映できるよう、透明で公正な議論の場を設け、効果的な運営につなげるために積極的な指導をしていただきたい。

## ◇付属資料

### 平成28年度 うるま市補助金審査委員会審査経過

日 程	事 項	内 容
6月8日(水)～ 6月15日(水)	各委員による選定作業	補助金等の中から各委員3件ずつ選定
6月30日(木)	第1回行政改革推進委員会	補助金審査対象事業の選定
8月15日(月)	第1回補助金審査委員会	①「うるま市補助金審査委員会設置に関する方針」の確認 ②平成28年度補助金審査委員会日程等の確認 ③審査方法の確認 ④個別補助金について審査【5件】
9月8日(木)	第2回補助金審査委員会	①個別補助金について審査【5件】 ②第1回委員会、議事録及び評価のまとめ確認
10月13日(木)	第3回補助金審査委員会	①第2回委員会、議事録及び評価のまとめ確認 ②審査結果報告書の作成
11月 8日(火)	平成28年度補助金等に関する審査結果について	補助金審査結果を市長へ報告

## うるま市補助金審査委員会委員名簿

	区分	氏名	役割等
1	委員長	さとう まなぶ 佐藤 学	学識経験者
2	副委員長	ふくはら とおる 福原 徹	公募委員
3	委員	とぐち ひろゆき 渡久地 博之	公募委員
4	委員	そのさき かよこ 園崎 香代子	公募委員
5	委員	いけはら こと 池原 トモ子	公募委員
6	委員	たまえ あきひろ 玉栄 章宏	公募委員
7	委員	しんじょう もとぎ 新城 基樹	公募委員
8	委員	たかえす やすよし 高江洲 康愛	公募委員
9	委員	まきじょう つかさ 牧門 司	公募委員
10	委員	はまぼた よしまさ 濱端 義正	公募委員
11	委員	かやわり すすむ 栢割 進	公募委員
12	委員	まちだ そうこう 町田 宗康	公募委員